

- るなら、試してみるのには良いアイデアかもしれない。
- 生徒達と先生方の宿泊先が異なり残念だった。私にとっては、一日の課題が終わり全ての考えがまとまる夜にテラスでする議論が一番有意義だったから。
- 夜も何日かは一緒に過ごすことができればもっと良かったかもしれない。
- はい、交流の機会は十分にあった。各講師がどの程度滞在するか分かるようスケジュールを公表してあっても良かったのかも。
- はい！どうもありがとう。
- はい、何人かの講師と素晴らしい議論をすることが出来た。
- 交流の多い講師とそうでない講師がいた。概ね、はい。
- ほとんどの講師が接触しやすかった。
- はい。ただ、講師の方々は時々シーサイドハウスを随分早めに出て自分達のホテルへ帰ってしまったのが、少し悩ましかった。
- そんなになかった。自分が彼らの話についていけなかったから。
- もっと交流がある方が良い。
- 講師達が講義中やその後に多くの時間を私達のために割いてくれ、ものすごく満足している。ほとんどの方々が生徒達の研究にも興味を持ってくれたようだった。何名かの講師とお話し出来た。彼らの優しさと丁寧さに感謝する。
- 講師によるけれど、大体は、はい。
- 交流の多い講師とそうでない講師あいた。シーサイドハウスとホテルを結ぶ交通手段の時間の都合で、講師の方達は私達との交流の時間が制限されていたようだ。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- 私はモーターコントロールを専門的とする実験心理学者なので、Emo Todorov や Reza Shadmehr のような講師に会い、感覚運動のシステムレベルモデルについて話が聞きたかった。Konrad Koending が参加されなかったのは残念！
- 銅谷賢治さんが導入部分の講義に加えて、彼の研究についてお話しして下さったのが嬉しかった。この分野（レートコード、バーコード等々）で長年合意のなかったトピックや討論に興味がある。概観を理解し意見を組み立てるのは難しいことだろうが、反対意見を述べる招聘講師とのパネルディスカッションのようなことをすると大変面白いだろう。いつも専門家達のやりとり（とケンカ）を見ると啓発される。
- 今年もそうだったように、広く豊富な多様性を保ってほしい。
- 大学に所属している以外の講師が良いかと思う。どなたか神経科学者のための異なるキャリアの道についてお話できる方。
- 計算認知神経科学のトピックについてももっと。講演者の例：Randall G. O'Reilly。 <http://psych-www.colorado.edu/~oreilly/>
- 講義の順番は内容が最初の週に導入、初級のものから、段々と難しいものになっていくように再構成する方が良いかもしれない。
- 実験的計測技術のチュートリアルがあると良いと思う。
- 意思決定。Paul Glimcher, Brian Knutson, Daeyeol Lee, John O' Doherty。
- 私のデータ解析のためにこのような段階のことを知っておく必要があったので、イオンチャンネルから行動までのトピックが面白かった。銅谷先生のスペシャルトークの中以外ではfMRIトピックが出なかったので、特にfMRIを専門にしている方々には、fMRIとモデルを組み合わせてお話しができる講師の方々がいると良いかもしれない。
- 今年のようなトピックは、モデルに関して全く分からない沢山の方々にとって、一般観念や感じ方、観点を得る助けになった。具体的なトピックが彼らの研究をもっと助けられるのでは。
- Gareth Leng - エディンバラの神経内分泌学者で計算モデルや実験をしている。Daniel Durstewitz (私のスーパーバイザー)は実験とモデリングをしている。Wolfram Schultz, Jonathan Cohen, Eve Marder, 他の良い実験者の方々。生徒達を奇抜なアイデアで刺激し挑発する方なら誰でも。抜本的な問題について、特に教授陣を巻き込んで討論すれば良い刺激となるだろう。
- ミズーリ大学セントルイス校神経力学センターのS. Baharさんを推薦したい。彼女は私の論文のスーパーバイザーで、とても興味深い研究者で、生徒達と議論するのが好む素晴らしい人物である。彼女はラットの大脳新皮質のてんかん性の行動と神経システムにおける同期化の計算研究の生体イメージを一体化している。 <http://www.umsl.edu/~neurodyn/faculty/bahar.html>
- 行動モデル、精神物理学、fMRI方法。
- 講演は大変良かった。私はこの分野には馴染みがないと思うが、満足と呼べる以上のものを見ることが出来た。

- ・ 神経科学システムについての講義をもう少し聞きたかった。

3. OISTについて

1. OISTへの求人応募を検討しますか？

- ・ はい。(4件)
- ・ いいえ。(2件)
- ・ はい、予約したい。
- ・ そう思う。
- ・ 多分。
- ・ 今はない。
- ・ 今は、いいえ。
- ・ 今はないが、多分将来的には。
- ・ キャンパスが完成したら。
- ・ ニューヨークに数年いるつもりなので、今すぐにはない。
- ・ Ph.D.の最初の年なので考えるには早いですが、こちらの研究成果と施設の質の高さに驚いている。
- ・ ドイツでの3年契約が決まったばかり。
- ・ OISTは研究のための設備がしっかり整っていて素晴らしい場所。
- ・ 銅谷先生といつか一緒に研究したい。
- ・ もし私自身がもっと確立していて他の候補者の方達と競えるぐらいになったときに、まだポジションが空いていれば、イエス。
- ・ 今から3年以上先なら考えられる。
- ・ はい、できる。この島は全く孤立しているにも関わらず、ここでの生活は大変快適そう。
- ・ はい！もしできれば。
- ・ はい。私は猿を取り扱う実験研究者なので、もしそのようなポジションに求人があれば応募する。
- ・ 今、沖縄に来てみて、ポジションへの応募を検討することもあり得ると思う。ただ、個人的には長期間住める土地ではないと感じる。

2. 沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか？

- ・ 孤立 - ここは極めて人里離れていると感じる。言葉の壁もあるので、沖縄に働きに来ることはかなり慎重に考えなければならぬ。
- ・ 私の夫がここで仕事を探せるかどうか。
- ・ 私にとって一番の難点は、この地が比較的孤立しているという事実。
- ・ 私の伴侶や子供にとって、仕事が探せるか、生活、発展の可能性。神経科学以外に、自分の好きなことが出来て、私の人生のバランスを実現させられるか。
- ・ 気候。私の体には厳しかった。
- ・ 機嫌外での言葉の壁。残念ながら島のほとんどの人は英語が話せない。
- ・ 言葉、家族。つまり、私のパートナーも沖縄で仕事が探せるかどうか。
- ・ 施設の拡充。
- ・ 資産は素晴らしいと思う。考えなければならない最大の要因は、家族や友達と離れ、孤立すること。
- ・ 利点：自然、財源。難点：孤立（地理的・社会的）。家族にとって不利（例、インターナショナルスクールの不足）。
- ・ 共同研究のために同一分野での主要研究者がいるかどうか。
- ・ 利点：現在の研究メンバー、立地、休日のアクティビティ。難点：沖縄はどこからも大変遠く、那覇は私にとって十分な大きさではない。雪がなく、沖縄ではスキーが出来ない。
- ・ 孤立感...
- ・ どんなに施設や研究者達の専門知識が素晴らしいとしても、孤立した立地が私にとって唯一OISTへの応募を止める理由。全体的なインフラが上がれば、この地も活気づくかもしれない。
- ・ 文化の違いというものは橋を架けられるものだと分かること。だからこそ、コース終了後に個人的に、地方文化と交流し、土地を知る機会があるのが良い。もしこうする機会がなければ、OISTは沖縄から孤立しているかのように感じ、もし来るなら社会の輪はとても小さなものになるという印象を与える。
- ・ 研究以外で楽しめる活動は十分にあるだろうか。文化的な生活、旅行する可能性...。研究者は小さい家族を養えるぐらいの収入はあるのだろうか。または、同伴者に仕事はあるのだろうか。
- ・ 状況。私の故郷であるフランスから遠い。

- ・ 沖縄の文化。
- ・ 移りたい重要な要因としては、センターは素晴らしい、銅谷先生の研究も好きで、日本の文化も素晴らしい。移らない主な要因としては、この辺りはとても孤立していて、私の妻にとっては大変難しいだろうということ。
- ・ 移りたいけれど、数年間だけ（例えば、ポスドクの間）。文化が違い過ぎて長く住むことは出来ないと思う。
- ・ 交通の不便さ。
- ・ 交通（旅行）。科学的なコミュニティの質が重要ではあるけれど、
- ・ 距離、孤立、子供達の学校。
- ・ 気候が私には暑過ぎるし、信じられないほど孤立していると感じる。

3. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエストは？

- ・ 銅谷賢治先生の研究には、報酬に基づく学習やソーシャルロボットの両方とも、とても興味がある。
- ・ OIST には異なる視点から脳幹神経節の研究に携わっている方が大勢いるという点が気に入った。このラボとの協力によって OIST から素晴らしい論文がたくさん出されるのを期待している。
- ・ 素晴らしいアイデア！
- ・ また将来いつか訪れることができたら良いなと思う。
- ・ 今回の分野は私にとって新しいものだったので、新しい可能性が開けた。
- ・ OIST プロジェクトの成功を切望している。
- ・ 多くの可能性があり大変面白いアイデアだ。特に、ケンジ（銅谷先生）、エリック（デ・シュッター先生）のような才能ある PI をもっと採用すればと思う。どのように発展するか楽しみにしている。

4. 全体的なコメント & 提案

- ・ 本当に楽しい 3 週間だった。時々ちょっと孤立しているように感じたが、満喫した。新しい人々に会ったり沖縄の生活を疑似体験したりと、コースの全てに渡って大変満喫した。OCNC2008 の参加者に私を選んでくれて本当にありがとう。（日本語で）「ありがとうございました。」
- ・ この 3 週間で学んだ全てのこと感謝したい。高いスキルがある頼もしいチューターの指導の下でモデリングプロジェクトを始める機会が得られ、とても嬉しい。このプロジェクトでこの数ヶ月間に興味深い研究成果を挙げられるよう願っている。
- ・ コースは本当に楽しかったし、沢山の新しい友人や将来的に共同研究者となる可能性のある方々に会えたと、モデリングのことも学べた。
- ・ この素晴らしい 3 週間をありがとう！！
- ・ サマーコース全体が良く準備されていたし、3 週間で十分に学べたと思う。素晴らしい経験だった。ありがとう。
- ・ OCNC2008 での素敵な時間をどうもありがとう。
- ・ 素晴らしいコースと、このように楽しく忘れられない 3 週間をありがとう。沢山の学び、沢山の素晴らしい方々と出会い、今まで行ったことのないような素晴らしい地を経験できた。
- ・ 生徒 30 人というのはこのコースにとって適正サイズだ。
- ・ OIST シーサイドハウスは、完璧な宿泊施設、食事、ミーティング会場を持っている。運動できるジムがあるととても素晴らしいだろう。公共のジムに何回か行ったが、エアコンがついてなかった。エクササイズするには湿度が高すぎるし暑過ぎた。
- ・ このサマースクールに私を生徒として迎え入れてくれ、どうもありがとう。人生の中でとても大事な経験となったし、科学と共に世界中の文化も学ぶことが出来た。
- ・ 本当に楽しかった。この機会を与えてくれどうもありがとう。
- ・ このコースはとても良く準備されていて、色々な意味でとても助けられた。これからも頑張ってください！！
- ・ 来る前は、コースが私の PhD にとってどの程度役立つのか定かじゃなかった。まだ効果は出ていないが、研究コミュニティの他の人達と交流したこの機会が、家に戻ってから私の研究の質・妥当性を大いに高めてくれるだろう。もし、どんな質問が重要で、他の人達が何に取り掛かっているかを把握できなければ、良い研究成果をあげるの難しい。このコースの格式張っていない雰囲気は、シニア研究者の方々と話し、彼らから学ぶのに、最高の機会だ。招待してくれて本当にありがとう！
- ・ 全体の印象は大変良い。ただ、旅行手配の点については検討すべき。

- ・ 前述したとおり、生徒達それぞれのプロジェクトを初期の段階でもっと明確に発表させるよう勧める。そうすれば誰が何をしているか知ることができるし、共通のテーマでのグループをもっと簡単に構成できただろう。更には、3 週間という期間で枠組を明確にし、もっと効率的な研究ができるだろう。
- ・ この素晴らしいコースを開催してくれ、どうもありがとう！！
- ・ このコースは大切なことを学ぶ良い機会を与えてくれた。この経験は貴重なものに違いない。この計算神経科学コースが沖縄の象徴となることを願う。
- ・ 全てを本当に楽しめた。どうもありがとう！
- ・ どうもありがとう！他の生徒やスタッフに会えてとても嬉しかった。私にとって大変実りのある経験だった。
- ・ 素敵な 3 週間だった。どうもありがとう。この機会を持つことができ、とても幸運に感じる。

ワークショップアンケート

Open Problems in Neuroscience of Decision Making

意思決定の神経科学における未解明の問題

日付: 2008年10月15日~10月18日

回答数 4件 (講師 0、参加者 4、その他 0)

1. 講義内容

優良(2)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ 私には大変感動的だった。

2. 会場設備

優良(2)、良(2)、可(0)、不可(0)

3. 宿泊施設

シーサイドハウス: 優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ これはとても素晴らしい。最近オックスフォード大学に滞在する機会があったが、こちらの宿泊施設の方が遙かに良かった。

4. 食事

優良(2)、良(1)、可(1)、不可(0)

- ・ 機構の規定があるのは分かりますが一日だけではなく、アルコールの支給があれば話が弾んだかもしれません。
- ・ もう少し洋食が多くても良かったと思います。ただ、他の面やサービスは完璧でした。
- ・ すばらしいセレクションでした。きれいで、よいサービス、おいしかったです。
- ・ 素晴らしいと思う。(大袈裟に言ってるわけではない。)

5. 事務局

優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 素晴らしい。あなた方のサポートに心からとても感謝している。

6. 沖繩の印象

優良(3)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 一つ残念だったことは、観光する時間機会がなかったことだ。(でもこれはあなた方のせいではない!)

7. その他のご意見、ご提案

- ・ 平らな枕

ワークショップアンケート

Multi-Scale Phenomena in Biology

バイオロジーのマルチスケール現象

日付: 2008年11月4日~11月6日

回答数 17件 (講師 6、参加者 11、その他 0)

1. 講義内容

優良(12)、良(5)、可(0)、不可(0)

- ・ 初日は過密スケジュールだった。
- ・ とても役に立った。ただ幅が広すぎて講義の約40%はほとんどの聴講者が理解できていなかった。
- ・ 時間割は完璧だった。科学分野の面白い内容がたくさん盛り込まれていた。
- ・ 発表者と質疑応答の時間が十分にあったところが良かった。

2. 会場

優良(16)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 設備が技術的によく整っており、快適で、よく準備されたミーティングルームだった。

3. 宿泊施設

リザンシーパークホテル: 優良(5)、良(1)、可(0)、不可(0)

シーサイドハウス: 優良(9)、良(1)、可(1)、不可(0)

- ・ 部屋はちょうど良い大きさで、部屋からの景色は素晴らしく快適。必要な物全てが部屋に揃っている。

4. 食事

優良(13)、良(4)、可(0)、不可(0)

- ・ 規則に制約されているのは分かるが、アルコールがいくらかあると夕食時の会話が円滑になるだろう。
- ・ 素晴らしいセレクション、清潔、良いサービス、おいしい食事。
- ・ もう少し洋食があれば良かった。でもそれ以外は、サービスは完璧だった。

5. 事務局

優良(16)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 完璧以上でした。この組織のスタイルを故郷に持ち帰りモデルとします。
- ・ よく準備されていました。

6. 沖繩の印象

優良(13)、良(3)、可(0)、不可(0)、未回答(0)

- ・ 美しい場所、少し静かすぎる。でも残念ながら、ここの地域の人々の暮らしぶりをほとんど見られなかった。
- ・ あまり分からない。
- ・ ポストカードと郵便局の案内は?

7. 旅行手配

優良(13)、良(3)、可(1)、不可(0)

- ・ 旅行会社は3社の航空会社の予約をリンクしてくれなかったのが、チェックインの手続きを3回しなければならなかった。もし私に機内預かり荷物があったら、面倒なことになっていただろう。
- ・ ユナイテッドは満足度において統計上好ましい評価がない。お薦め: コンチネンタル。

- ・ サービスは正確、迅速、全てがスムーズに運んだ。
- ・ とても助けになった。

8. その他のご意見、ご提案

- ・ 毎日の最後に全体討論の時間を 30 分程取る。講師全員がこの時間枠に参加する。参加者が討論に参加できるともっと良い。
- ・ 講師もシーサイドハウスに宿泊していたら恐らくもっと良かっただろう。
- ・ 「マルテスケール」の様々なトピックを取り上げるワークショップを次回計画する時には、また参加したい。
- ・ 素晴らしいワークショップ。幅広い分野の方々から話が聞け、刺激になった。
- ・ バイオロジーのマルテスケール現象を理解する上で最良のワークショップ。このワークショップに参加できて大変嬉しい。
- ・ 素晴らしいワークショップ！
- ・ 見事だった。どうもありがとう。
- ・ 講演者の時間割：講演者は、討論の前に考えをまとめるため、休憩を入れる。講義中に邪魔にならない程度のおしゃべり感覚で討論できるシステム。
- ・ 全ての参加者が数学の専門知識を持っているわけではないので、公式を説明するのではなく、基本的概念の観点からモデルを説明するよう（もしくは、せめてバランスを保つよう）講師に助言すると有益かもしれない。
- ・ このワークショップへ招待してくれどうもありがとう。興味深い方々と知り合い、興味深いトピックを議論でき、嬉しい。
- ・ 私は多くの会議に出席したが、これは群を抜いて最も良くまとめられ、よく考え抜かれた会議だ。この日本式のお手本を自分の所属機関へ持ち帰ろう！！素晴らしい仕事ぶり。会議の内容も要点を押さえていた。本当にありがとう！！A+

ワークショップアンケート

Gradients and Signalling: from chemotaxis to development

勾配と情報伝達：化学走性から発生まで

日付： 2008 年 11 月 17 日～11 月 21 日

回答数 46 件（講師 17、生徒 28、その他 1）

1. 講義内容

優良 (35)、良 (11)、可 (0)、不可 (1) ※参加者の内 1 名は複数回答

- ・ トピックは良い。スケジュールはもっとコンパクトでもよい。午後の休憩が長すぎた。
- ・ 講演の時間の長短のコンビネーションが良く、また、とても興味深い関連性のある幅広いトピックがカバーされていた。
- ・ 講演とディスカッションの時間のバランスがよく取れていた。招待講演者にはもっと長い時間 (40 分間の全部の時間) を割り当ててもよい。講演者たちとのディスカッションは休憩中や食事中など十分な時間があつた。
- ・ 異なるトピックの講演開始前に導入部分がなかったため、研究分野の異なるプレゼンテーションについていきにくい時があつた。
- ・ 講演者の中にはその分野の専門でない参加者にとって聞きやすくなるための配慮をしていない場合があつた。略語ばかりの講演は私にとって時間の無駄に感じた。他の講演者の講演はすばらしく、それぞれの研究分野を興味深くプレゼンしてくれた。※この参加者は「優良」と「不可」の複数回答
- ・ トピックはとても面白かったが、分野の幅の広さを考えると講演者は背景と内容の情報をもっと提供してもよかったのでは。
- ・ 1 時間の講演は長い様に思う。長くても 40 分/人でいいかもしれない。
- ・ 幅広い分野のすばらしいトピックが講演者たちによって話されていた。
- ・ 講演の内容が似通っていたものがあつた。
- ・ 招待講演者たちのレベルは素晴らしい。
- ・ 少しトピックが片寄っている気がした。ハエが多かったような。
- ・ 講演者、トピックともに素晴らしい。
- ・ あのような広範囲にわたる分野の中で、最高に多様性に喜んだ興味深いものだった。とても勉強になり、また刺激を受けた。
- ・ 内容やコンセプトに関して、今まで参加した会議の中で最も良いもののひとつだった。スケジュールもとても良かった。
- ・ トピックが幅広く、また多様だった。話される分野や課題についての概要紹介がもっとあれば良かった。
- ・ 休憩時間はもう少し短くてもよい。イブニングセッションの開始を早め、ディナーはセッション後でもよい。
- ・ 自分とは異なる分野の人々との交流は本当に良い刺激となった。多くを学んだ。

2. 会場設備

優良 (41)、良 (5)、可 (0)、不可 (0)

- ・ 複数のコンピューターが接続できるように、スイッチングハブが必要。
- ・ ひとつだけ残念だったのは、ポスターセッションが同じフロアでなく、1 階と 3 階の二つに分かれていたこと。
- ・ 素晴らしい会場！
- ・ 素晴らしい施設だった。
- ・ 会場の座席の配置は理想的ではなかった。両サイドの椅子の数が多すぎ、端に十分なスペースが

- なく、それが原因で参加者は一定の角度からスクリーンを観なければならなかった。
- 会場は講演には理想的ではなかった。スクリーンを観るのが困難な席が多くあった。
- 学術的なニーズを満たすにも相応しかったし、また、美しくリラックスできる環境だった。

3. 宿泊施設

リザンシーパークホテル：優良(16)、良(0)、可(0)、不可(0)

シーサイドハウス：優良(24)、良(3)、可(3)、不可(0)

- 清潔で、景色は素晴らしく、人々もとても協力的、デスクも仕事がしやすかった。
- 素晴らしい宿泊施設。
- 部屋がとても清潔。
- きれいで過ごしやすかった。部屋からの sea view がすばらしかった。
- どんな科学者でも会議中のここでの滞在を喜ぶだろう。
- ひげそりがあればよかった。
- シャワー室が狭い。

4. 食事

優良(37)、良(7)、可(2)、不可(0)

- 日本食自体にあまり馴染みがない。
- とても美味しく、バラエティーに富んだ料理だった。沖縄料理も口に合った。
- とても美味しかった。
- もっと沖縄料理が食べたかった。
- 種類、味ともに満足。多少でも沖縄料理があれば、もっとよかった。
- 内容はホテルのものも良かったが、朝にごはんも食べたかった。
- 時々脂っこく感じた。

5. 事務局

優良(40)、良(5)、可(1)、不可(0)

- よく手伝ってくれたし、友好的だった。
- とても優しく、能力もあり、能率の良いスタッフだった。みんなに御礼を言いたい。
- サポートは素晴らしかったが、事前の情報は不完全だった。私戻しに関する情報はまとまりがなかった。
- とても役に立ち、気配りをしてくれた。
- とても友好的で協力的なスタッフだった。最高！
- 日帰り旅行のタクシー手配など、非常に助かった。晴れていない日の過ごし方の提案がもっとあればよかった。
- スタッフのサポートに感謝している。
- スタッフはとても助けてくれたし、良かった。
- 素晴らしいという言葉以上に素晴らしかった。際立ったサービスだった。
- 全員とてもよくサポートしてくれた。
- OIST のホームページに、ここの場所が、白雲荘前と書いてあったが、Seaside House 前ではないか？

6. 沖縄の印象

優良(35)、良(10)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

- 思ったより肌寒かった。
- 観る時間が無かった。私が観たものと言えば、那覇空港の綺麗な蘭！
- 海外のクレジットカードが利用できる ATM が必要！
- 今まで訪れた中で、もっとも景色が素晴らしい場所。
- とても良い所。今度はおそらく夏に、(観光客として) 来たい。
- 景色が素晴らしい。
- 前半、ずっと曇りだったので。
- 講演の合間にもっと島を観光する時間があればよかった。
- 美しい島と人々。
- 良い。OIST に行く交通手段が少ないのが大変な点。

7. その他ご意見、ご提案

- 各セッションの議長はそれぞれの分野について最大 5 分間の導入説明があればよかった。そうすることでその分野の専門でない参加者にも主な課題が理解できる。
- あらゆる面で素晴らしかった。
- ポスターセッションの時間帯が、午後の真ん中の時間帯ではなく、昼食のすぐ後またはディナーのすぐ前だと良かった。
- すばらしいワークショップだった。主催者と事務局に感謝したい。1 時間の講演は長すぎるので、長くても 40 分がよい。
- 素晴らしいワークショップだった。とても楽しかった。
- 主催者たちのもてなしは素晴らしかった。
- シャワーに加えてお風呂があればよかった。
- すべてがとても良かった。今まで参加した中で最も良い会議の中の一つだった。
- 科学分野の中でキャリアを始めたばかりの学生にとっては、この会議は本当に良い刺激と科学における自信を高めてくれた。
- 素晴らしいワークショップを開催してくれ、ありがとう。
- このような素晴らしいワークショップを手配してくれ、ありがとう。とても楽しかった。
- シャトルバスについて、夜間の運行がもっと多くあれば社会的イベントがもっとできただろう。
- シーサイドハウスの場所が沖縄の繁華街から比較的遠いので、自由時間を効率よく過ごせなかった。
- 将来また会議で沖縄を訪問できることを楽しみにしている。この会議から私が受けた全体の印象は、興味深い科学がここで起きているということだ。
- この場所で、私の研究発表をする機会をくれ、ありがとう。おそらく今まで参加した中で最も興味深いワークショップだ。講演者たちのホテルへのアクセスがもっと便利ならばよかった。そうすればイブニングディスカッションの参加がもう少し増えたと思う。
- 講師がイブニングディスカッションに残って貢献できるよう、ホテルへのシャトルバスの頻度を夜は増やすように提案したい。
- 発表会場の机の配置が(スクリーンを)少し見にくい。
- 素晴らしいワークショップだった。見事！
- ディナー後のイブニングセッションは少し困難。午後の遅い時間(5時30分か6時)でディナーの前には？

ワークショップアンケート

OIST Winter Course "Evolution of Complex Systems" 2008 (OWECS 2008)

2008 年度ウィンターコース「複合システム進化コース」

日付: 2008 年 12 月 8 日~12 月 14 日

回答数 20 件 (講師 1、生徒 12、その他 7 [参加者 6、OIST スタッフ 1])

1. 以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか。

1. 講義内容

優良(11)、良(7)、可(0)、不可(0)、未回答(2)

- ・ 生徒達のプレゼンテーションの時には講師の方々に講師を努めてほしい。または同じような研究的関心・モデル生物の講師の後に生徒のプレゼンをさせる。
- ・ ワークショップのみ参加した。(評価の未回答者より)
- ・ とても有名で、ためになる講演者だった。レヴィン先生とマクギニス先生の講義は素晴しかった。
- ・ 実験的な研究があればもっと良かった。
- ・ 全般的には、講義は素晴しかった。改善できるとすれば、もう少し講義に一貫性を持たせる点だろう。そうすれば単独の講義より「講義シリーズ」になり、まとまってくるだろう。発達生物学と進化はもう少し詳しく説明しても良かった。例えば、単一生物として取り上げるより、比較手法を用いて、シグナル経路や形質の出現を議論する等。
- ・ 講義内容はもっと実用的なセッション、つまり、講師と生徒がもっと密接に交流できるレッスンを含むべきと思う。
- ・ トピックはとても興味深いものだった。講義は明瞭、有益だった。
- ・ 良い講義。進化と発達の背景から高度なトピックまで良く理解できる。推薦レポートの序論に感謝している。
- ・ 説明はとても良く、よく理解できた。

2. 会場設備

優良(19)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 建物は豪華で、素敵なお立地だった。
- ・ ラボ以外は、会議に相応しい場所。

3. 宿泊施設

未回答(1)

シーサイドファカルティハウジング: 優良(1)、良(0)、可(0)、不可(0)

シーサイドハウス: 優良(16)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ 素晴らしい宿泊施設。予想していたより遙かに良かった。日本人のルームメイトと過ごせて満喫した。彼女と出会えて良かった。
- ・ 宿泊施設に何も問題点はなかった。
- ・ 個人的に自然が大好きなので、この宿泊場所は私には大変良かったようだ。
- ・ 清潔。私にとって外国人と部屋をシェアできるのは良い機会だった。

4. 食事

優良(18)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ 驚き。素晴らしい食事。
- ・ この一週間のとても素晴らしい食事には嬉しい驚きだった。
- ・ 食事の種類豊富さもサービスも素晴しかった。
- ・ 良かったが、もしカレーがあれば私にはもっと楽しめました。
- ・ 美味しかったし、沖縄の食べ物は私には興味深かった。

5. エクスカーション

優良(10)、良(4)、可(1)、不可(0)、未回答(5)

- ・ 参加しなかった。
- ・ キャンパスサイトを短時間視察できるのも面白いだろう。
- ・ 素晴しかった、水族館が気に入った。
- ・ 瀬底研究所と美ら海水族館に行くことができ、とても嬉しかった。
- ・ 良かったけれど、時間がとても短かったので、イルカショーが見られなかった。「ザンネンでした。(日本語で)」
- ・ 沖縄の生活を垣間見ることができ、良い機会だった。

6. 事務局

優良(16)、良(4)、可(0)、不可(0)

- ・ いつもその日に何が予定されているかよく分かった。
- ・ 「参考文献」が「良」だった。
- ・ すべてがよく準備されていて何のトラブルもなかった。素晴らしい。
- ・ 参考文献リストをもっと早くもらいたかった。
- ・ スケジュールや観光地インフォメーション提供を親切に対応してもらい感謝している。

7. 旅行の手配

優良(15)、良(1)、可(2)、不可(0)、未回答(2)

- ・ 各 2 回の乗り換えがなければ良かったのに。旅程は往復とも 27 時間ずつかかった。でも全体的には良かった。
- ・ 手配にもう少し自由があるといい。沖縄にもう数日滞在したかった。1 日遅く出発するのに少し余分に料金がかかっても、多くの人は差額を支払っただろう。それでも、全ての旅程が負担してもらえたことは大変に感謝している。
- ・ 迅速な手配だった。
- ・ とてもよく手配されていたので、OIST シーサイドハウスまで何のトラブルもなく辿り着いた。
- ・ OIST まで簡単に行けると感じる。

8. 沖縄の印象

優良(14)、良(5)、可(1)、不可(0)

- ・ 沖縄を見て回る時間がほとんどなかった。
- ・ 見事なところ。
- ・ 快適な気候だった。
- ・ 沖縄を訪れるのは初めてだったが、私は同じ天気・気候の国の出身なので、私には第二の故郷のように感じられた。
- ・ とても良い気候だと感じた。
- ・ 良いところ。自然が豊富。食事が美味しい。研究環境を整備するのは難しいかもしれないと感じる。

9. その他のご意見、ご提案

- ・ 2~3 日間沖縄を観光するため滞在を延長するのに、フライトを自己負担しなければいけない、ということになれば素晴らしいだろう。
- ・ 旅費規程について全般コメント: 主催者側は会議の参加者に対して、会議の前後に自由に休暇を取れるようすべき。特に参加者が海外からの場合には、これは、欧米の研究者は日本人と比べて時間の価値観が決定的に異なるので、彼らを引き付けられるとても些細な条件の一つ。だから、会議の前日から参加して会議の最終日には出発しなければ経済的サポートを与えないというのは、私の意見では、海外からの訪問者に日本の科学や文化を紹介するに当たって全く非効率的な方法ではない。
- ・ 1 つか 2 つの午後セッションを夜のセッションとして移動すれば、シーサイドハウスの立地の利点を参加者が活かせる。夜の活動、ディスカッションはいつも良いものではあるが、数晩あると

同じだった。OISTの研究者も同様に口頭発表をさせては、OISTで現在進められている研究活動を知ることができるのは興味深いだろう。

- このコースに申し込んだとき、プログラムの詳細を見つけれなかった。だから、ワークショップの期間中に講師が講演をしないことが分からなかった。それが唯一残念な点。もし機会があれば、次回はコース全体に参加したい。
- 私は日本に住んでいるので、日曜の夜に出发できて丁度良かった。ただ、他の何名かの人は（フライトを自己負担しなければ）日本にもう1日長く旅行で滞在することも出来ず、残念がっていた。欧米文化では研修・研究目的の出張と休暇を組み合わせるのとはとても一般的。生徒・講師がここにいる間にもっと日本を発見できる機会を与えることをお薦めする。例えば何日間も長く自費で滞在しても、フライトは負担してあげれば、実現できる。
- スケジュールがかなり過密だった。個人的なレクリエーション活動ができるよう午後1回自由時間を取り入れては。例えば、那覇市や沖縄市へ行く、シュノーケリングやダイビング、文化遺産を訪問、おみやげを買う。
- 将来沖縄に住み、研究できる機会があれば、とても嬉しい。
- ここのロケーション、機構、サポート、食事は、これ以上良くしようがない。ただ一つ残念なのは、日本の旅費規程がとても厳しいことで、それゆえ旅費は唯一「可」としたが、それでOISTが責められるべきではない。空港からへの送迎サービスは素晴らしい。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同様に申し込みをするよう勧めますか？

- はい。(4)
- はい!!!
- はい、する。
- 必ず。
- 絶対!
- おそらく同様に申し込みを勧めらるだろう。
- はい。たくさん学ぶことができ、周囲の環境は美しく、もてなしは比類ない。もしこのコースを知っていて、申し込まない方がいるというのは考えられない。
- はい、このコースに参加するよう強く勧めたい。
- 当然。もう既に他の人達に勧めた。
- はい。素晴らしい会議が開催される、訪問するのに素晴らしい場所だと伝える。
- はい。大規模な会議と重複しないようにしてほしい。
- もちろん、将来のキャリアに関する知識を豊かにする特別な何かを学べる、誰にも与えられた素晴らしいチャンスだから。
- 間違いない！私が見たように、このコースは、発生物学者だけでなく、色々な分野の多くの生徒や研究者に適している。
- はい。このウィンターコースは、よく構築されたトピックの講義を聴き、外国研究者と交流できる、貴重な機会だ。
- もちろん、勧める。
- はい。このコースを勧める。
- はい、自分の同様に勧めたい。

2. コースの長さ（6日間は長いですか、短いですか？）

- ちょうど良い。
- 適正。
- ラボコースがあれば素晴らしい。参加者によっては6日間で良いだろう。私の場合は、自分のラボを10日間以上不在には出来なかったと思う。
- ワークショップだけ参加した。丸2日間だったらもっと良いと思う。
- コースの内容にとっては、長さは良かった。
- ワークショップのみに参加したが、6日間は講義、ワークショップ、フリーディスカッションにとって良いと思う。
- 6日間は生徒達にとっては良かったが、ポスドクにとっては長過ぎたと思う。なので、長いかわいさを言うのは難しい。
- 少しだけ長過ぎたと思う。

- コースの長さは適当だと思う。
- 内容面で長さは適正だったと思うが、私の前述コメントも見てほしい。
- 短い。最低でももう1週間は延長すべき。
- 6日間はとても短い。もっと学びたい生徒にとってはもっと時間があるほうが良い。
- たぶん1日多かった。
- 私の印象では、この講義の量に対して、コースの長さはちょうど良かった。
- ちょうど良い長さだった。
- 6日間は適当だと思った。
- 6日間はぴったりだと思う。
- ノーコメント。

3. 招聘講師（生徒）とは十分に交流が持てましたか？

- はい。(4)
- 参加者間には確かに力強い交流があり、講師と交流する機会も十分にあった。
- 講師はワークショップ期間中は不在だったので、生徒と講師の交流はほとんどなかった。
- はい、十分な時間があったので、他のラボで講師や生徒とよく議論した。それが一番良いことだった。
- たぶん。
- はい。マイク・レヴィン先生の“ホット・ボックス”が気に入った。会議室がもう少し大きくなかったのが残念。
- はい、十分だったし、雰囲気は本当に良かった。
- はい、食事を一緒に取るのがとても良かった。おかげで、もっと話を聞きたい時はいつでも講師に近づくことができた。
- はい。私は英語が流暢でないので、講師の話についていくのが少し難しい。
- はい、とても良い交流が持て、ためになった。
- 海外からの偉大な教授陣は常に一緒に行動していて、日本の若い生徒達と交流を図ろうとしていなかったように私には思えた。でも、これは彼らだけの責任ではないかもしれない。
- はい、お互いに接触するのに最低限の十分な時間はあった。
- これは最も重要な質問だと思う。英語を母国語とする講演者はもっとゆっくりと話し、教えるべき。
- はい、規模は最適だった。
- はい。講師に質問し、話す機会は十分にあった。食事中や他の空いた時間など、皆がシーサイドハウス周辺にいて対応してくれたので。特に長時間のディスカッションはとても良かった。
- 講師と生徒は丁寧に話してくれた。それが良い点だった。貴重な時間を過ごすことができた。
- 私は普段は英語を使わないので、私にとって良い機会だった。海外の生徒達と積極的に話すよう頑張った。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- トピックは良い。エイリーン・ファーロウのゲノミクスや、ハマダ・ヒロシのマウス早期胎生学も、もう少し取り入れても良いかも。
- ほ乳類の発達はおそらく十分に説明されていなかった。
- 小進化やスペシエーションを研究している方も候補だと思う。例えば、洞窟魚、カブトガニ、スクリッド魚を研究している方も良いと思う。
- システム生物学—小進化、プラント、エンコード・プロジェクトからの人々を招待してはどうか。
- 統合進化生物学（分子進化、古生物学、発生物学などの統合）
- このコースは「ウッズ・ホール胎生学コース」のようなものに発展すると聞いた。胎生学コースの部分をいくつか顕微鏡で視ることができれば良いのだが。次回講師の推薦：マーク・マーティンデル。
- 講師を何名かお薦めしたい。
 - マックス・J・テラフォード先生（ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ）
 - ショーン・B・キャロル教授（ウィスコンシン大学）
 - ニール・シュービン教授（シカゴ大学）
- 生物情報学？
- RNA生物学（ハルヒコ&ミキコ・シオミ、アレックス・シーア、ロナルド・プラスターク等々）
- 環境生物学
- 将来的には、この講義シリーズは（もし多細胞性が「複合システム」の狭義の定義でなければ）真正後生動物よりもっと基礎分類学を含むよう拡大してもよいのでは。推薦したい講師は、ニコ

ール・キング。また、複合性は、単一生物から、宿主と共生生物（共生的、片利共生的、寄生性）を含んだ多重種体系のディスカッションまで、広げてもよいかも。

- ・ 何名かの講師は、自分たちの研究や研究成果の発表ばかりでなく、もう少し進化のトピックに的を絞って講義をするべき。
- ・ 生物科学研究に関連する最新の情報を含んだ、新しい科学のトピックなら何でも。
- ・ (特に生徒に役立つような) 生物系の研究のための新しい方法論
- ・ 進化発生学は良い。進化と発生の関連知識を考えるのは重要だと思う。だから、研究者が彼らの研究と見通しについて、最低でも二局面から、例えば発生と変形メトリクスから、講義をするのは興味深いと思う。

3. OISTについて

1. OIST をどのように知りましたか？

- ・ インターネットで見つけた。
- ・ 大学に貼ってあったポスターで。
- ・ OIST のプロジェクトについて最初に知ったのは、私が東京大学で院生だった時に、東京大学のアライ・シンイチ教授からだった。それから OIST の進捗やイベントをチェックしていた。
- ・ OIST で開催された他のミーティングに参加した友人から聞いた。
- ・ 佐藤先生を知る私の機関の誰かが、このコースを宣伝していた。
- ・ ウェブサイトで。
- ・ OIST について佐藤先生が教えてくれた。
- ・ 日本動物学会からの e-mail で。
- ・ 同僚が教えてくれた。
- ・ 主催者からの招待。
- ・ 私のアドバイザーから。
- ・ 佐藤ユニットの方と連絡を取っていたので。
- ・ 友人を通して。
- ・ インターネットと友達から。
- ・ OIST についてマイク・レヴィンから聞いた。
- ・ OIST について佐藤先生の以前の生徒から教えてもらった。
- ・ 新聞のレポートから知った。
- ・ シニアリサーチチャーから聞いた。
- ・ 自分が OIST スタッフ。

2. OIST の印象

- ・ 素晴らしいところ。いつでも戻ってきたい。
- ・ 第一印象は良いが、建物とラボの建設が完成し、どのように事業が進むかを見るのを待ちたい。
- ・ 類似希な教授陣のリーダーシップに支えられ、最先端の施設が計画され、国際的視野があり、独特で美しい環境。
- ・ 傑出した研究環境。
- ・ 大変恵まれている機構のように見える。
- ・ とてもプロフェッショナルで、熱心で、大望のある、一見したところ十分な資金力のある機構。
- ・ 生物多様性と海洋生物の研究をするには最高の立地と思われる。
- ・ 素晴らしい！完璧な機構！
- ・ 大きくて素敵な機構！
- ・ 極めて優れた機構になると思う。
- ・ 期待していたより遙かに素晴らしかった。施設は良く、事務局はプロフェッショナル。
- ・ OIST は良い設備を持っていると思う。
- ・ 将来の展望に感嘆し魅了されている。
- ・ 良い。
- ・ 最新の機器があり、研究にはとても良いと思う。
- ・ 研究施設を実際には見なかったが、私が会った教授陣は素晴しかった。
- ・ 全般的に見れば、この機構は研究、コースやワークショップをするにはとても良いところと思われる。研究グループとトピックの幅広さには感銘しているし、新しいキャンパスが出来れば機構全体は更に改善され、可能性を拡大していくと思われる。

- ・ OIST は研究するのに大変快適なところ。
- ・ 良いところ。次の機会には研究施設が見学できれば良い。

3. OIST への求人応募を検討しますか？

- ・ はい。(4)
- ・ いいえ。
- ・ はい、もちろん。
- ・ 必ず。
- ・ もし貴機構が科学の観点から本当に魅力的であれば、可能性はある。
- ・ 基礎生物学に絞って研究できるなら、OIST のポジションに応募したい。
- ・ たぶん今から数年以内に。
- ・ もし機会があればポジションに応募するだろう。
- ・ はい、応募について考えている。
- ・ はい、もし私の配偶者にもポジションを用意してくれるなら。
- ・ はい、おそらくインターンシップで。
- ・ もし OIST で研究する機会が得られれば、私の研究キャリアを高めてくれる素晴らしい機会となるだろう。
- ・ いいえ、今のサンディエゴで十分過ぎるほど満足している。
- ・ 私の必要条件が全て叶うなら絶対に応募したい！
- ・ 将来 PhD を取得したら OIST のポジションに応募したい。
- ・ 良い。OIST はゲノム計画で進捗しており、興味深い。

4. もし応募する場合、沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか？

- ・ ラボスペースや高性能機器が重要な要因になる。相当離れた島ではあるが、良い生徒選を引き付ける力と、日本の科学コミュニティとの強い連携。
- ・ 沖縄は孤立しているようなので、最も重要な点は、日本や海外でなされた研究との交流の強さ。これは例えば、毎週セミナーを実施してくれる外部訪問者の存在や、日本の本島での会議に容易に参加できること。
- ・ 沖縄での生活コストと水準 VS 給与
- ・ 研究環境。例えば、施設、研究費、近接する研究分野の研究者とに交流がとれるか、等々。
- ・ 日本のアメリカ軍。
- ・ 日本・沖縄文化が西洋人に馴染みがない点。日本は家族や故郷から遠く離れている点。どちらの問題点とも、日本のどの機関にも当てはまることだろう。
- ・ 他の日本人科学者と、(新しい技術に関連する) 情報を共有し、頻繁に科学的コミュニケーションを保つ点が、問題になるだろう。
- ・ 家族組織
- ・ 妥当なポジションにつけるかどうか。
- ・ OIST は科学的視点ではとても魅力的だと思うが、別件で沖縄に移る予定がある。私にとって最大の問題点は、孤立、つまり都会の生活から離れていること。
- ・ 学齢期の子供達がいる。日本の本島の都市部と同等の質の教育を受けさせられるかが心配。
- ・ 特にならない。
- ・ ポスドクや研究者としてなら。若手研究員として自分の研究を実施するに当たって、自身の個性とシニアスタッフからのインスピレーション・専門知識との間で、良いバランスを取れるか。
- 1. 私の計画提案に対して、研究資金や関心(すなわち機構内のアドバイスやサポート)は満足できるものか。
- 2. 給与と福利は、私と妻が生活を維持できる妥当性があるか。
- ・ 私には当てはまらない。
- ・ 第一に、私の家族が住んでいるところから離れていること、第二に、この言葉の壁があること。日常生活をしていくには日本語を勉強しなくてはならないだろう。だが、ここの運営陣は日本語を話さない人達への対応も準備ができており、それはとても助けになるだろうと思う。
- ・ 引っ越しを考えるとできないが、一般的に言って、沖縄は日本の東京、大阪等の大都市から離れているのが一つの理由。
- ・ 研究の環境。
- ・ 前述のとおり(「今のサンディエゴで十分過ぎるほど満足している。」)

5. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエストは？

- ・ 独立研究者のポジションをどうかもっと作ってほしい。

- ・ このコースはとても良かった。生徒同士でディスカッションをする時間も十分にあったし、夜のディスカッションでは皆さん自分たちの研究分野について良く説明できていた。もしかしたら JSPS の短期助成プログラムで私たちのラボに来てもらえるかもしれない！
- ・ OIST はもっと情報開示を活動的にするべき。
- ・ OIST は持っている可能性をもっと宣伝すべきで、そしてより良い給料形態をよい日本の科学者達に向けて提示するべき。
- ・ とても良い CV があればポストの経験がなくても調査員のポジション申請を受け付けてもらえるだろうか？
- ・ OIST プロジェクトの多大なる成功を祈っている。世界でも高い水準の研究施設になることを祈っている。
- ・ OIST のホームページから既に沢山の情報が得られている。
- ・ ホームページにある OIST プロジェクトはユニークで興味深い。このプロジェクトが前進・発達することを願っている。

4. 全体的なコメント&提案

- ・ OIST に来て本当に楽しかったし、素晴らしい時間を過ごせた。私の期待を遙かに上回っていた。招待してくれてどうもありがとう。
- ・ このコースは本当に素晴らしかった。生徒の間でも、ディスカッションには十分な時間を持てた。夜のディスカッションでは皆、自分の研究分野を詳細に説明できた。成果として、今年は JSPS の短期奨学金を利用して私たちのラボに短期プロジェクトで来る生徒がいるかもしれない！
- ・ 大変良く出来ていた。参加する機会を与えてくれてありがとう！
- ・ この会議に参加する機会を与えてくれた主催者に本当に感謝する。様々なラボからの大勢の方々と十分に話し合う時間が取れた。このような素晴らしい会が今後も続くことを願っている。OIST をもっと世の中に知ってもらうには良い方法だと思う。
- ・ もし同じようなコースが来年も公表されたら、申し込みたい。貴機構の世界規模の研究環境を目指しているポリシーに大変興味がある。貴施設はこのポリシーを達成するのにふさわしいが、情報公開が不十分だ。こちらの企画にいつか参加したいと願っている。
- ・ 周囲の美しい環境の中で、素晴らしく、また、よく計画されたコース。OIST と沖縄を訪れるこの機会を得られ、とても嬉しいし、また、OIST と沖縄の両方に大変良い印象を持っている。
- ・ トップの科学者達の講義を聴くすばらしい機会だった。OIST の PI による講義も、もっと聴きたい。
- ・ これはコースだったけれども、同時にもう少し沖縄を満喫する価値があると思う。何名かの生徒達は遙か遠方から旅してきており、彼らがここに来られる唯一の機会かもしれない。だからもう一つツアーを計画することを勧めたい。おそらく、沖縄の文化に焦点を合わせたツアー。貴機構はいくつかの重要な場所からとても離れており、自力で行くのは難しい。それ以外では、コースはとてもよく計画されていたと思う。
- ・ 沖縄の OIST で素晴らしい一週間を過ごした (2008 年 12 月 7 日~14 日)。世界でも有名な生物学者数名と会え、私の知識を豊かにすることができた。ウィンターコースの主催者、共催者、全ての関係者に、特にこのような大成功のコースとワークショップを準備した佐藤矩行先生と彼のラボ (マリンゲノミックスユニット) スタッフ全員に感謝したい。将来またいつかどこかで会えたら嬉しい。
- ・ コースとそれに続くワークショップとに分けた構造はとても良い。おかげで生徒は自分達の研究の印象も与えることができた。新キャンパスが出来上がればすぐに、実用的な部分も強化されるだろう。実用的部分を伴う理論的な講義は、この部分を丸一日に拡大しても良い。だからもう一日で 3 講義だろうか。でも私の意見では、そのための時間は十分にあった。このコースは進化発生生物学の基本原則と現在の論議と功績について、この分野の主要研究者から学ぶ素晴らしい機会だ。
- ・ このスクールとワークショップで素晴らしい体験をした。この機会に招いてくれたことを感謝する。これは私にとって英語でコミュニケーションを取り、外国の生徒達と交流する良い機会だ。講義も良い。教授陣は背景から先端研究まで話してくれ、質問にも十分に答えてくれた。今度は OIST のラボを見学できると良いと思う。

Blueprint of the New Graduate University

新大学院大学の青写真

July 30, 2008

The Board of Governors

The Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構 運営委員会

新大学院大学の青写真(仮訳)

運営委員会は、大学院大学の将来に関する主な事項(青写真)について検討を行った。運営委員の合意を得たものについては、以下のとおり要約できる。

【総論的事項】

- ・ 制度的事項については、所要の法律に盛り込まれるものも含まれる。他方、特に教学的事項については基本的に法律には盛り込まれない。

【制度的事項】

1. 大学院大学の目的
 - ・ 世界最高水準の科学技術に関する研究及び教育を実施することにより、沖縄の自立的発展と、世界の科学技術及び経済社会の向上に寄与すること。これらの目的は以下の理念に基づくものである。

世界最高水準(Best in the World)
柔軟性(Flexible)
国際性(International)
世界的連携(Global Networking)
産学連携(Collaboration with Industry)

大学院大学の設立に当たっては、これらの目的を尊重する必要がある。

2. 大学院大学の名称
 - ・ 英語の名称については、現在と同じ名称(Okinawa Institute of Science and Technology (OIST))とし、副称(International Graduate University)を検討する。
3. 大学院大学の設置形態
 - ・ 大学院大学の法的な位置づけについては、大学院大学の自主性と運営の柔軟性を尊重する観点から、「特別な学校法人」により設置される新たな形態の大学とする。
4. 法人の管理組織
 - ・ 大学院大学の監督主体として、ボード(理事会)が最高意思決定機関としての役割を担う。
 - ・ 理事会の役割と最高執行責任者(CEO)であるプレジデント(理事長・学長)の役割は明確に区別される。理事会は、プレジデント(理事長・学長)の選任・解任及び寄附行為の変更を含む重要事項の決定を行う。
5. 国の支援と関与
 - ・ 本大学院大学が、沖縄の振興と世界の科学の発展に寄与する世界最高水準の大学院大学となるためには、長期にわたる政府による高水準の財政支援が不可欠であり、特別の財政支援の仕組みの検討を要請する。